

岡山県感染症週報 2016年 第24週 (6月13日～6月19日)

◆2016年 第24週 (6/13～6/19) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第22週 2類感染症 結核 1名(40代 女)
 5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(幼児 女)
- 第23週 2類感染症 結核 1名(60代 女)
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名(O26:20代 女)
 5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名(60代 男)
 後天性免疫不全症候群 1名(20代 男)
- 第24週 2類感染症 結核 3名(60代 女 1名、70代 男 1名・女 1名)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(90代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- 感染性胃腸炎は、県全体で280名(定点あたり6.65 → 5.19人)の報告があり、前週よりわずかに減少しました。
- ヘルパンギーナは、県全体で110名(定点あたり1.76 → 2.04人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。
- 伝染性紅斑は、県全体で25名(定点あたり0.44 → 0.46人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 流行性耳下腺炎は、県全体で88名(定点あたり1.31 → 1.63人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

1. **感染性胃腸炎**は、県全体で280名(定点あたり6.65 → 5.19人)の報告があり、前週よりわずかに減少しました。地域別では、倉敷市(6.82人)、備前地域(6.50人)、美作地域(6.17人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
2. **ヘルパンギーナ**は、県全体で110名(定点あたり1.76 → 2.04人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。地域別では、岡山市(3.00人)、美作地域(2.67人)、備中地域(2.57人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. **伝染性紅斑(リンゴ病)**は、県全体で25名(定点あたり0.44 → 0.46人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。第21週(5/23～5/29)からほぼ横ばいで推移しているものの、過去10年間の同時期と比較して多い状態です。地域別では、真庭地域(2.00人)、倉敷市(1.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に真庭地域(0.50 → 2.00人)では、前週より大きく増加し、発生レベル3となりました。この感染症は、特徴的な両頬の発しんが出現する7～10日前に、微熱や咳などの風邪の様な症状がみられることがあり、この時期にウイルスの排出量が最も多くなります。妊娠中、特に妊娠初期に感染した場合は、胎児異常(胎児水腫)や流産のおそれがあります。妊娠中の方は、伝染性紅斑が周囲で流行している時、風邪の症状がある人にできるだけ近づかないよう注意が必要です。また、家庭内に感染した人がいる場合は、必ず産婦人科で相談しましょう。
4. **流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**は、県全体で88名(定点あたり1.31 → 1.63人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、備北地域(3.25人)、岡山市(2.50人)、倉敷市(2.09人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に備北地域(1.00 → 3.25人)では、前週より大きく増加し、発生レベル2となりました。この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★★★
突発性発疹	➡	★	百日咳	➡	★
ヘルパンギーナ	➡	★★★	流行性耳下腺炎	➡	★★★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★
細菌性髄膜炎	➡	★★	無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	➡		クラミジア肺炎	➡	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
↓ : 2倍以上の減少 ↘ : 1.1～2倍未満の減少 ➡ : 1.1未満の増減
↗ : 1.1～2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加

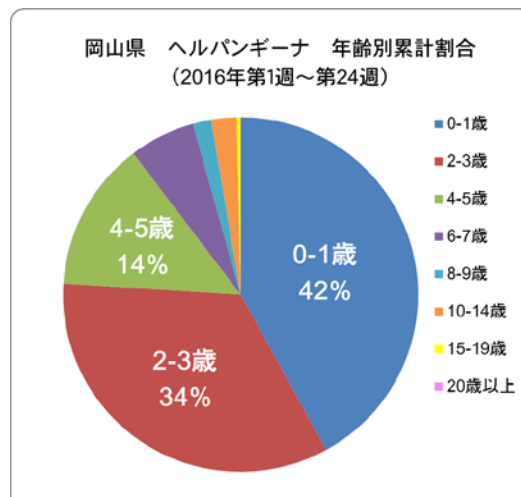
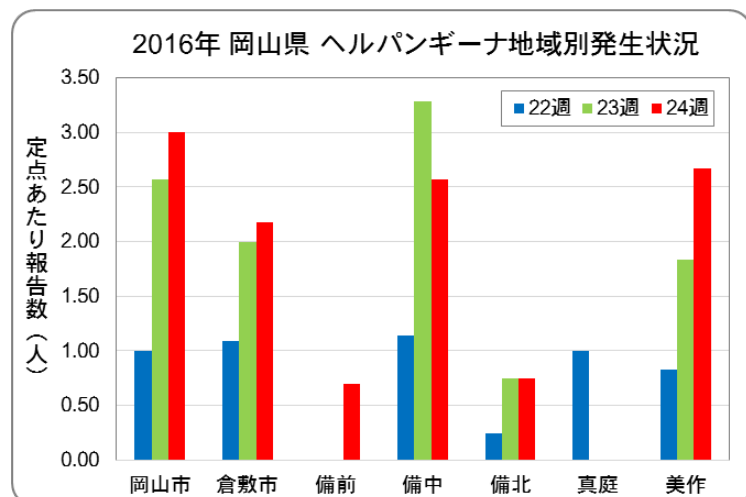
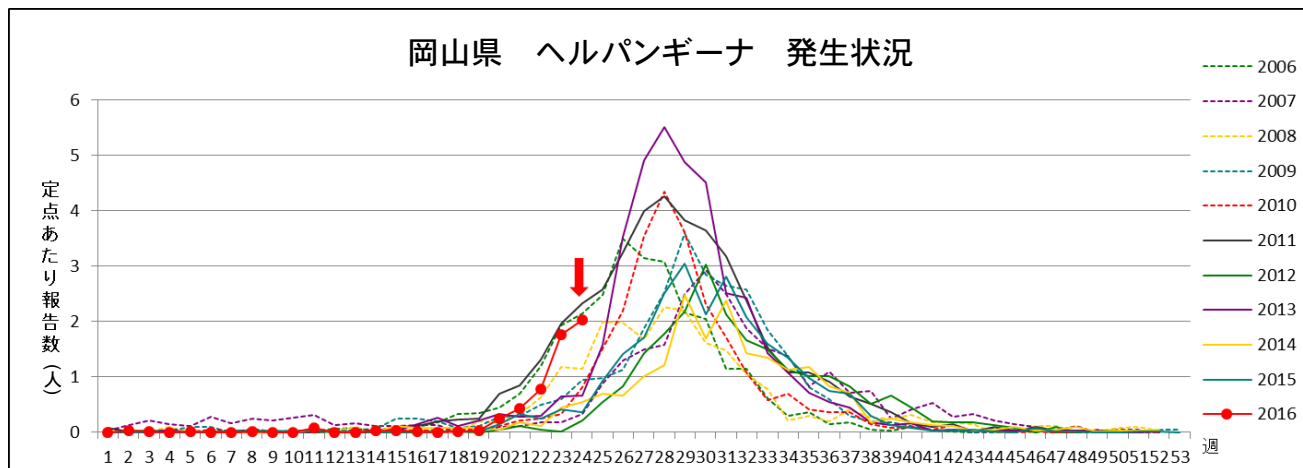
発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

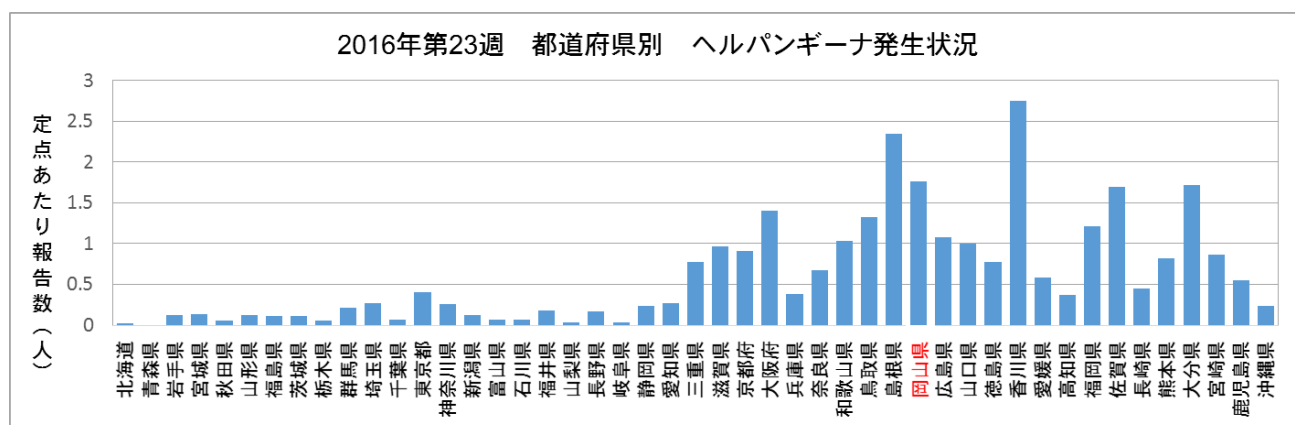
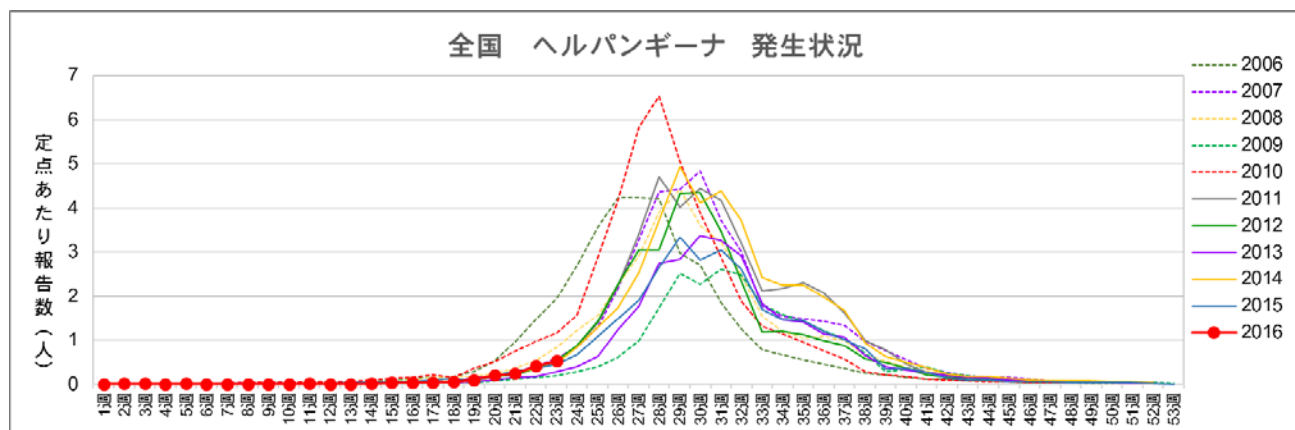
ヘルパンギーナ

【岡山県の発生状況】



ヘルパンギーナは、県全体で110名（定点あたり1.76 → 2.04人）の報告があり、前週よりわずかに増加しました。過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、岡山市（3.00人）、美作地域（2.67人）、備中地域（2.57人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で、患者が報告されています。2016年第24週までの年齢別累計割合では、5歳以下の乳幼児が全体の90%を占めています。

【全国の発生状況】



全国の第23週の発生状況は、定点あたり報告数が0.53人と、7週連続で増加しました。都道府県別では、香川県（2.75人）、島根県（2.35人）、岡山県（1.76人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。西日本を中心に流行しており、岡山県は、全国で3番目に報告数が多くなっています。今後の県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

【ヘルパンギーナとは】

ヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。主にコクサッキーウイルスA群などが原因となります。感染している人が、咳やくしゃみをした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排出されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。毎年、5月頃から患者が増加し始め、7月頃にかけてピークとなる傾向があります。

【症 状】

症状は、突然の発熱（38～40℃）につづいてのどが痛くなり、口腔内に直径1～5mmほどの赤い小水疱が、多数出現するのが特徴です。小水疱は、やがて破れて痛みを伴います。通常、2～4日で軽快し予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんを伴ったり、口腔内の痛みのため、食事や水分を十分にとれず脱水症状を呈することがあります。まれに、無菌性髄膜炎や急性心筋炎などを合併することもあるため、お子さんの状態に注意し、頭痛やおう吐がみられる際には、早めに医療機関を受診してください。

【予 防】

患者との密接な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を行い、オムツや便の取り扱い時には使い捨てのゴム手袋を使用するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、保育園、幼稚園、学校などの集団生活では注意が必要です。

[ヘルパンギーナとは（国立感染症研究所）](http://www.niid.ac.jp/ja/infection/infection_01/herpangina/herpangina.html)

蚊が媒介する感染症に注意しましょう！

蚊が媒介する感染症は、ウイルスなどの病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症で、世界的に多く発生しており、特に熱帯・亜熱帯地域で広く流行しています。主な感染症には、**ジカウイルス感染症**、**デング熱**、**日本脳炎**、**マラリア**、**チクングニア熱**などがあります。



ヒトスジシマカ
(国立感染症研究所)

日本では、海外渡航などの増加により、海外で感染し、帰国後発症する輸入症例が増加しています。現在、中南米地域、タイ、フィリピン、ベトナムなどでジカウイルス感染症が流行しており、特に妊婦及び妊娠の可能性のある方はご注意ください。また、2014年に、69年ぶりとなるデング熱の国内感染例が報告されました。国内には、ウイルスは定着していないと考えられますが、今後も注意が必要です。

蚊が媒介する感染症の予防策

蚊に刺されない

- 長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出をなるべく避ける。
- 素足でのサンダル履きを避ける。
- 白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ。(蚊は色の濃いものに近づく傾向がある)
- 蚊取り線香などを使って蚊を近づけない。
- 露出する部分には虫除けスプレーなどを使い、蚊を寄せ付けないようにする。

蚊を発生させない

蚊は、小さな水たまりを好んで卵を産み付けます。
家の周囲の不要な水たまりをなくしましょう。



(厚生労働省)

[「デング熱」にご注意を！ 予防策は「蚊に刺されない」「蚊を発生させない」 \(政府広報オンライン\)](#)
[何が危ない？ どう防ぐ？ ジカウイルス感染症 \(ジカ熱\) 予防のポイント \(政府広報オンライン\)](#)

リーフレット (厚生労働省)

[【出国編】 中南米地域、タイ、フィリピン、ベトナムなどで「ジカウイルス感染症」が流行しています！](#)

[【入国編】 中南米地域、タイ、フィリピン、ベトナムなどで「ジカウイルス感染症」が流行しています！](#)

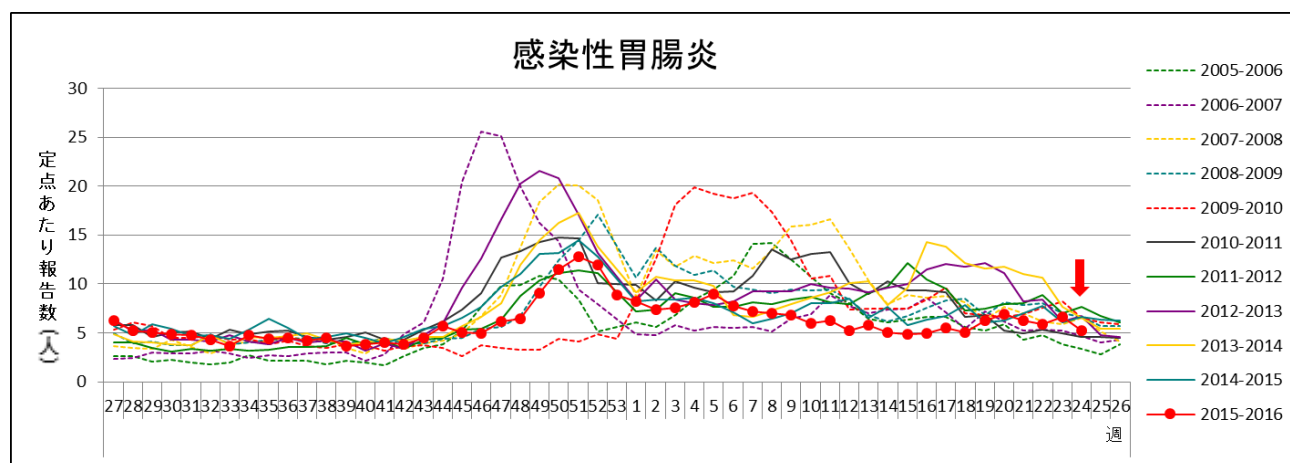
[【用心編】 ジカ熱・デング熱対策「蚊の用心 ひと刺し用心」](#)

[【発生源編】 ジカ熱・デング熱の感染のもとヒトスジシマカの発生源を叩け！](#)

[【学校編】 ジカ熱・デング熱の感染源ヒトスジシマカに注意！](#)

感染性胃腸炎週報 2016 年 第 24 週 (6 月 13 日 ~ 6 月 19 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 280 名（定点あたり 6.65 → 5.19 人）の報告がありました。（54 定点医療機関報告）

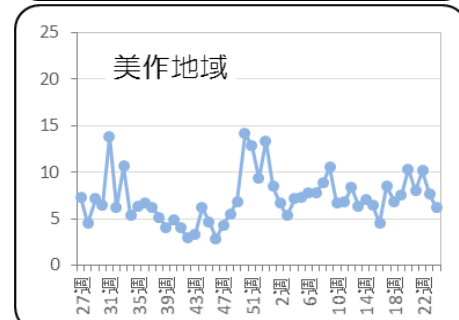
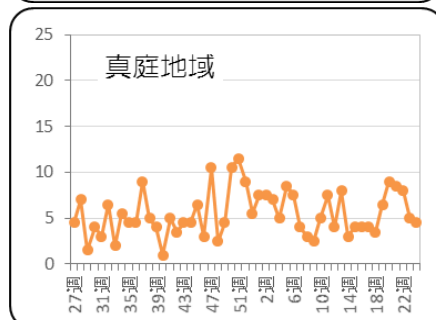
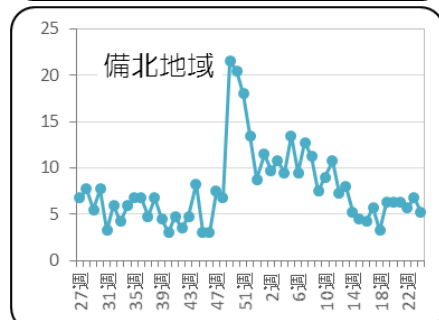
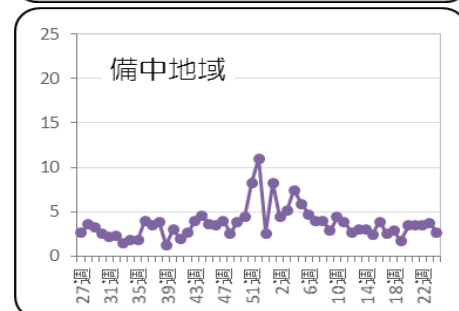
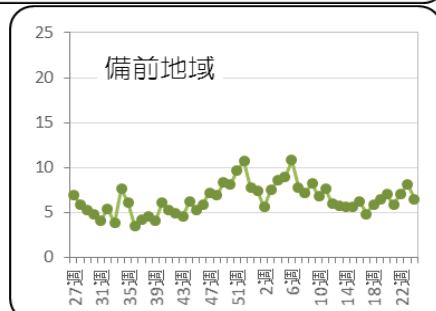
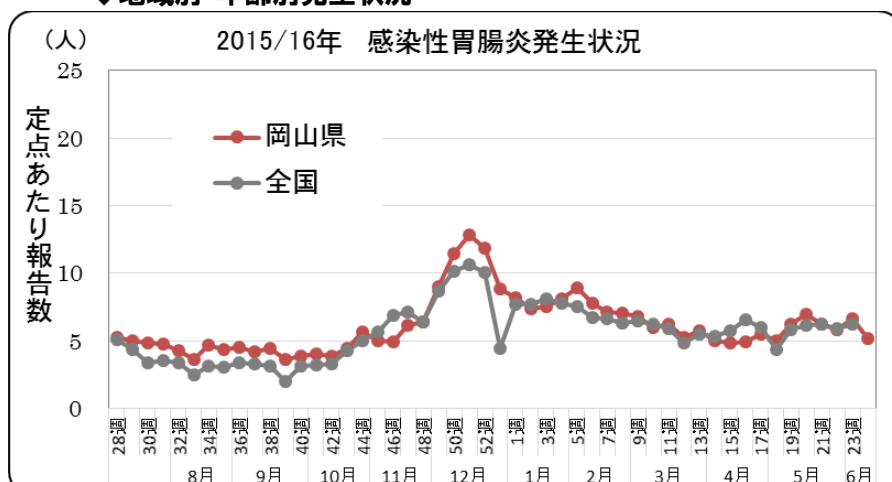


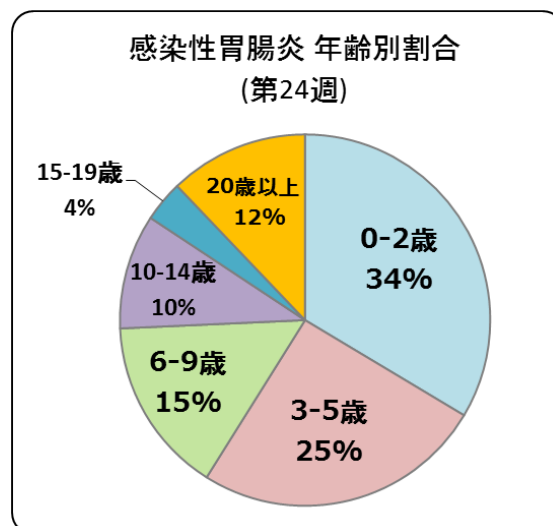
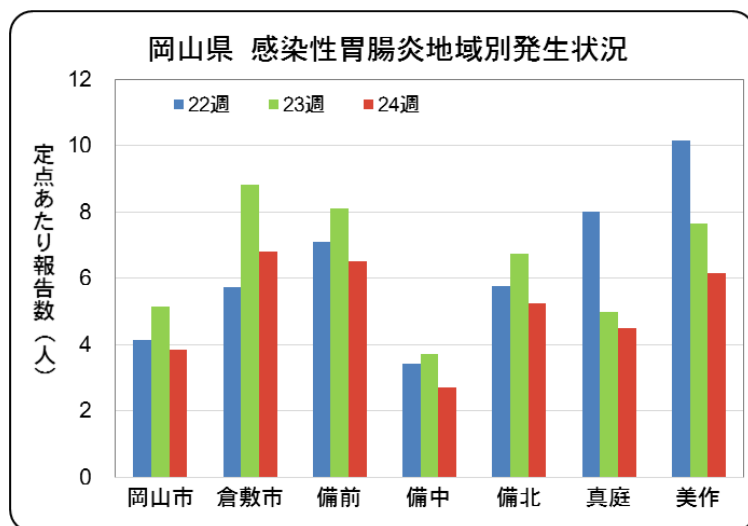
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 280 名（定点あたり 6.65 → 5.19 人）の報告があり、前週よりわずかに減少しました。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、倉敷市（6.82 人）、備前地域（6.50 人）、美作地域（6.17 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 24 週年齢別割合では、0-2 歳 34%、3-5 歳 25%、6-9 歳 15% の順で高くなっています。

◆◆◆ 食中毒予防の 3 原則 ◆◆◆

- 「清潔」（菌をつけない）
 - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- 「迅速・冷却」（菌を増やさない）
 - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
- 「加熱」（菌をやっつける）
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。
（食肉の生食は避けましょう。）

（岡山県生活衛生課 HP より）

[家庭でできる食中毒予防の 6 つのポイント（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2016年 24週(定点把握)

(2016/06/13～2016/06/19)

2016年6月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	26	0.48	7	0.50	—	—	2	0.20	2	0.29	1	0.25	1	0.50	13	2.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	1.13	17	1.21	17	1.55	7	0.70	6	0.86	—	—	2	1.00	12	2.00
感染性胃腸炎	280	5.19	54	3.86	75	6.82	65	6.50	19	2.71	21	5.25	9	4.50	37	6.17
水痘	17	0.31	8	0.57	9	0.82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手足口病	25	0.46	9	0.64	10	0.91	3	0.30	2	0.29	—	—	1	0.50	—	—
伝染性紅斑	25	0.46	3	0.21	11	1.00	4	0.40	1	0.14	—	—	4	2.00	2	0.33
突発性発疹	22	0.41	10	0.71	6	0.55	2	0.20	3	0.43	—	—	—	—	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	110	2.04	42	3.00	24	2.18	7	0.70	18	2.57	3	0.75	—	—	16	2.67
流行性耳下腺炎	88	1.63	35	2.50	23	2.09	10	1.00	4	0.57	13	3.25	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	—	—	1	0.25	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	26	0.48	7	0.50	－	－	2	0.20	2	0.29	1	0.25	1	0.50	13	2.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	1.13	17	1.21	17	1.55	7	0.70	6	0.86	－	－	2	1.00	12	2.00
感染性胃腸炎	280	5.19	54	3.86	75	6.82	65	6.50	19	2.71	21	5.25	9	4.50	37	6.17
水痘	17	0.31	8	0.57	9	0.82	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
手足口病	25	0.46	9	0.64	10	0.91	3	0.30	2	0.29	－	－	1	0.50	－	－
伝染性紅斑	25	0.46	3	0.21	11	1.00	4	0.40	1	0.14	－	－	4	2.00	2	0.33
百日咳	1	0.02	－	－	－	－	1	0.10	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	110	2.04	42	3.00	24	2.18	7	0.70	18	2.57	3	0.75	－	－	16	2.67
流行性耳下腺炎	88	1.63	35	2.50	23	2.09	10	1.00	4	0.57	13	3.25	1	0.50	2	0.33
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	2	0.17	－	－	1	0.25	－	－	1	1.00					－	－

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第24週 2016/06/13～2016/06/19)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	26	-	1	7	2	6	2	3	2	-	-	1	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	-	-	5	3	4	5	6	10	5	6	2	10	-
感染性胃腸炎	280	1	30	31	32	36	17	18	7	15	11	10	28	10
水痘	17	1	-	4	3	2	2	2	-	2	-	-	1	-
手足口病	25	3	6	5	2	3	3	1	-	-	-	-	1	-
伝染性紅斑	25	-	-	-	4	6	5	2	2	1	2	2	-	-
突発性発疹	22	2	8	8	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	110	1	7	36	24	16	11	4	4	2	2	-	3	-
流行性耳下腺炎	88	-	-	5	6	14	14	4	11	9	10	6	9	-

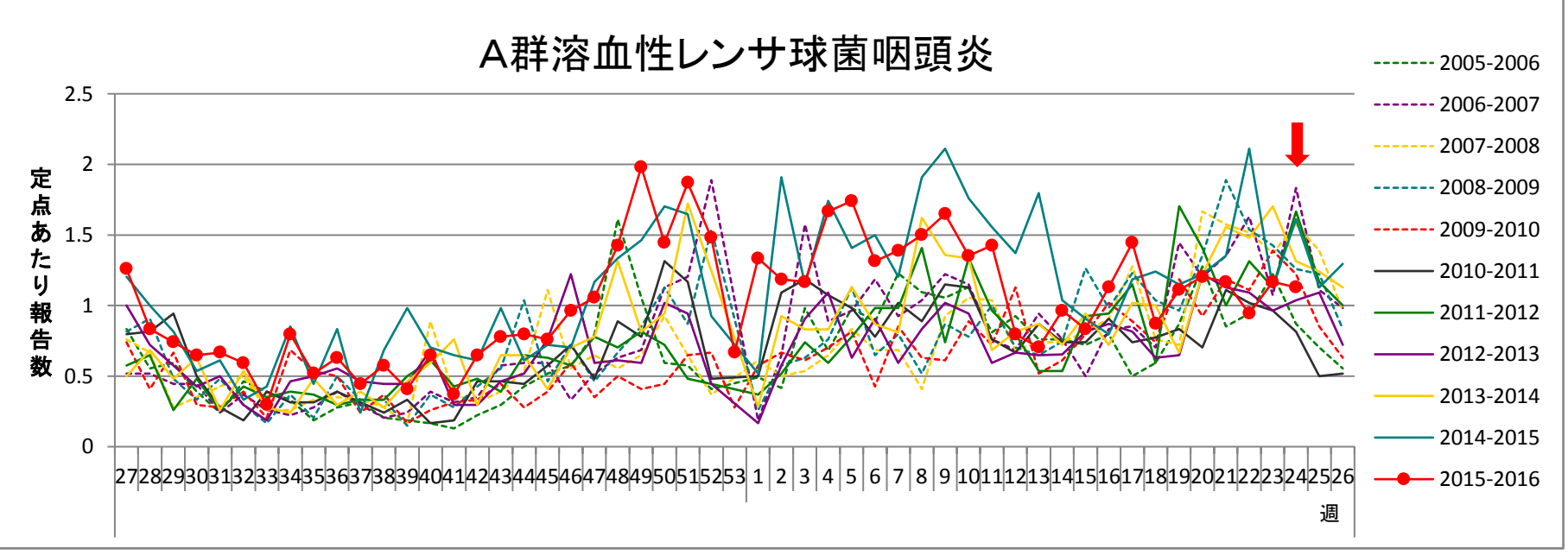
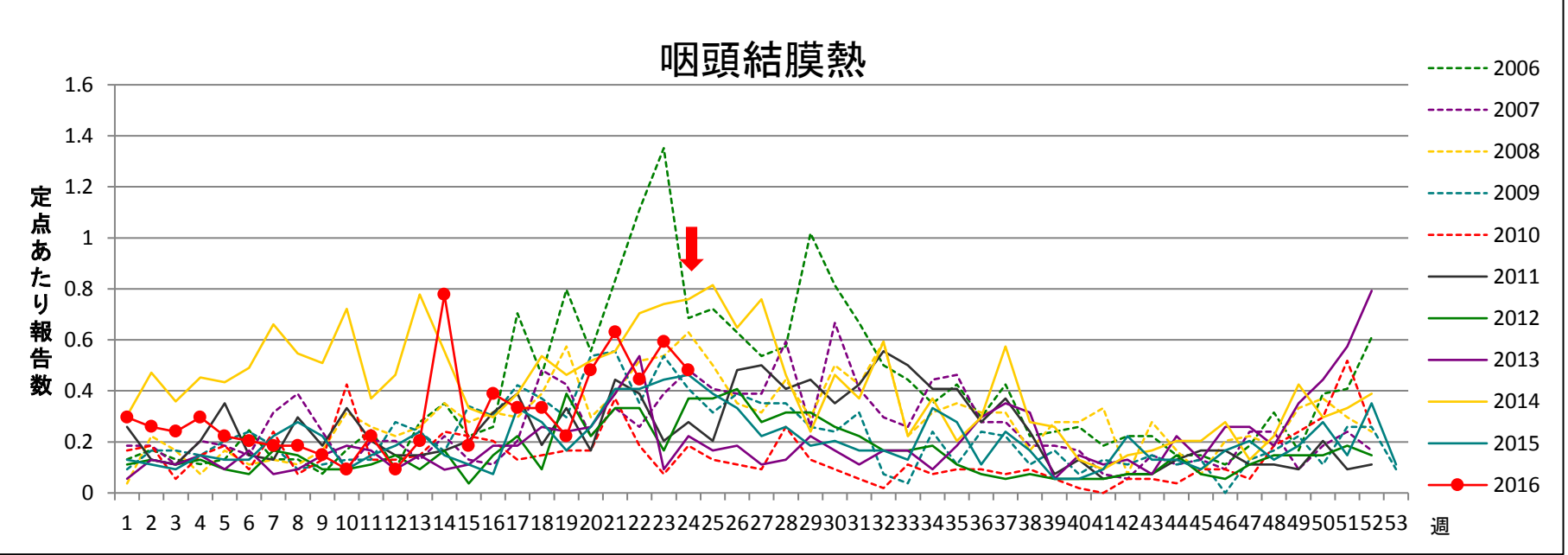
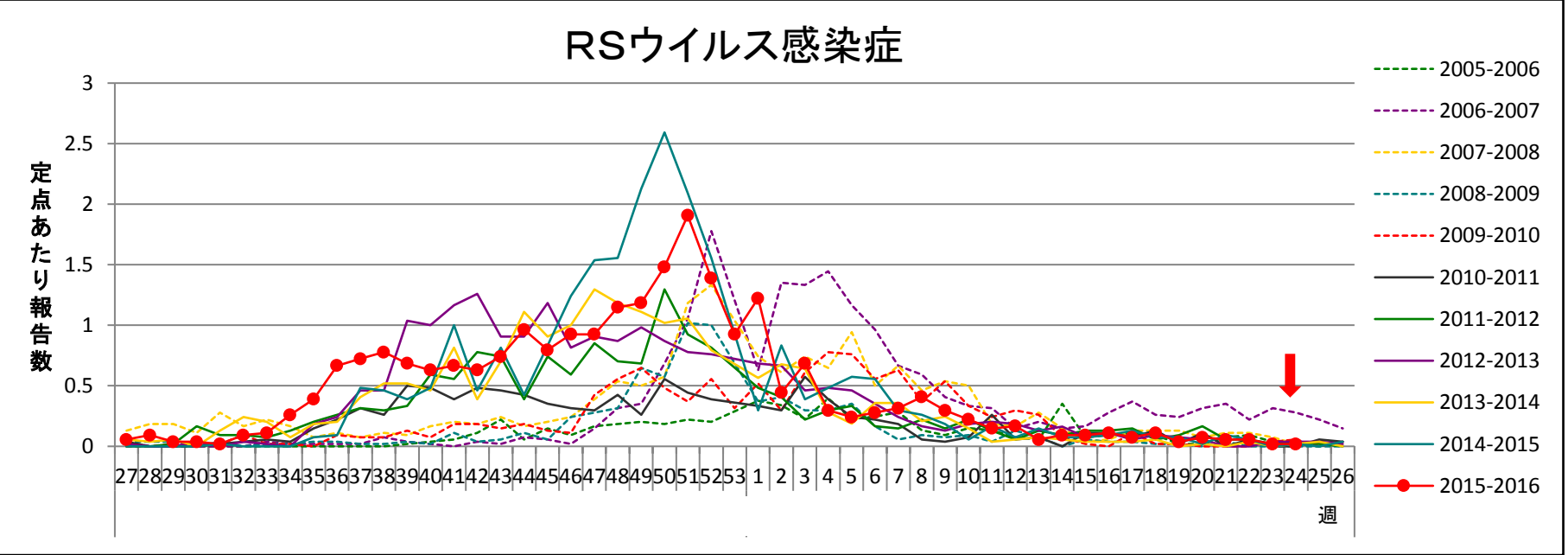
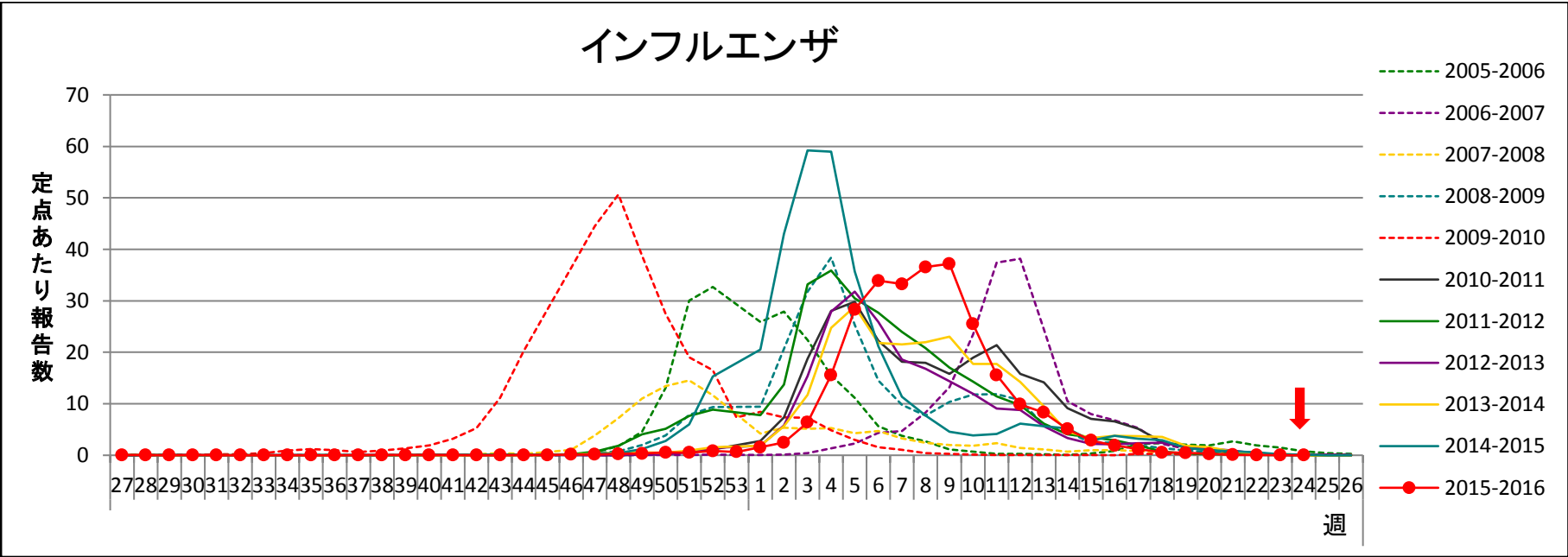
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

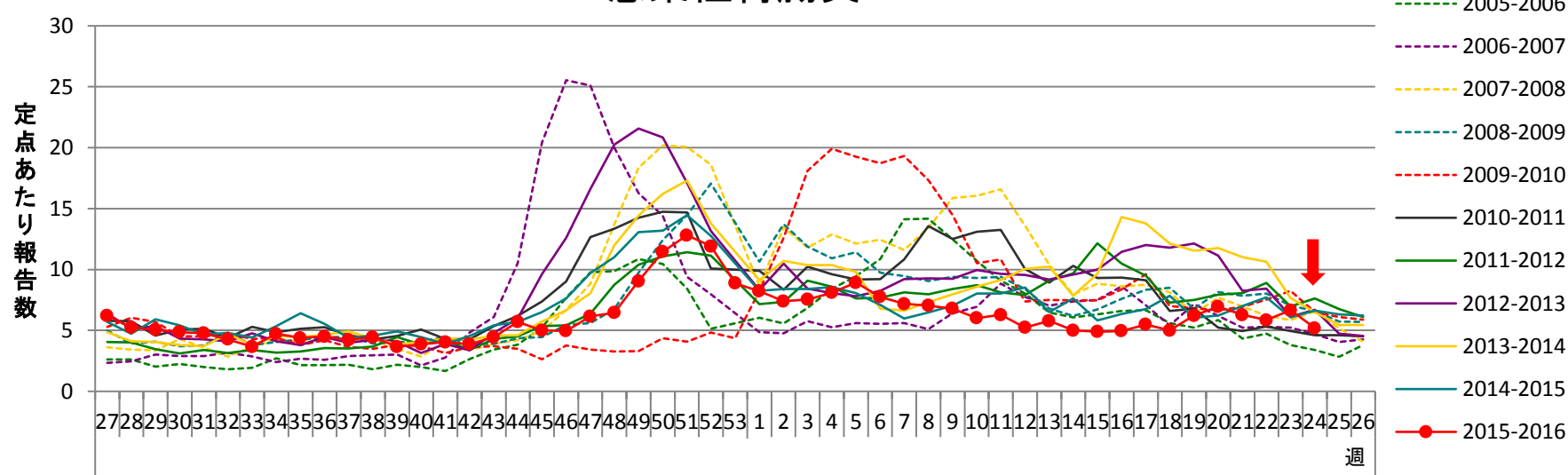
(- : 0)

2016 年 24 週

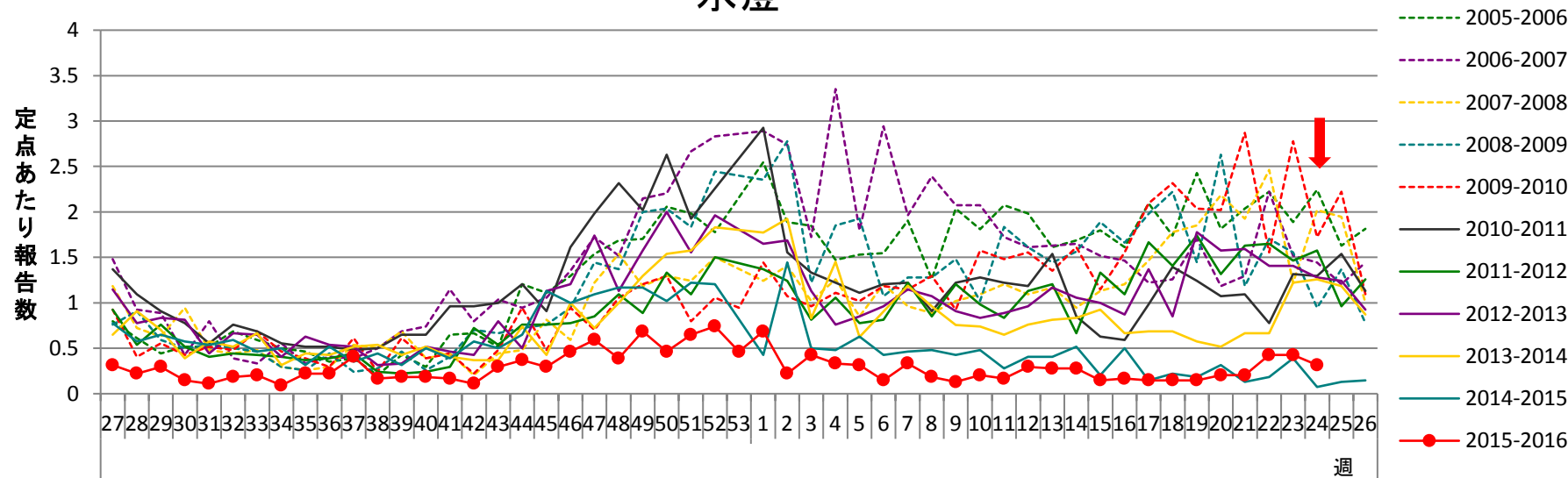
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	132	373	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	2	腸管出血性大腸菌感染症	－	10	63
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	2	3	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	2	9
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	1
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	1	－
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	1	1
	デング熱	－	－	2	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	－	3
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ポツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	2
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	13	28
	レプトスピラ症	－	－	－	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	7	17	ウイルス性肝炎*3	－	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	11	33
	急性脳炎*4	－	6	14	クリプトスポリジウム症	－	－	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	5	2	後天性免疫不全症候群	－	5	21	ジアルジア症	－	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	2	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	17	35
	水痘(入院例に限る。)	－	1	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	16	25
	播種性クリプトコックス症	－	1	1	破傷風	－	1	－	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	－	風しん	－	－	－	麻しん	－	－	－
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



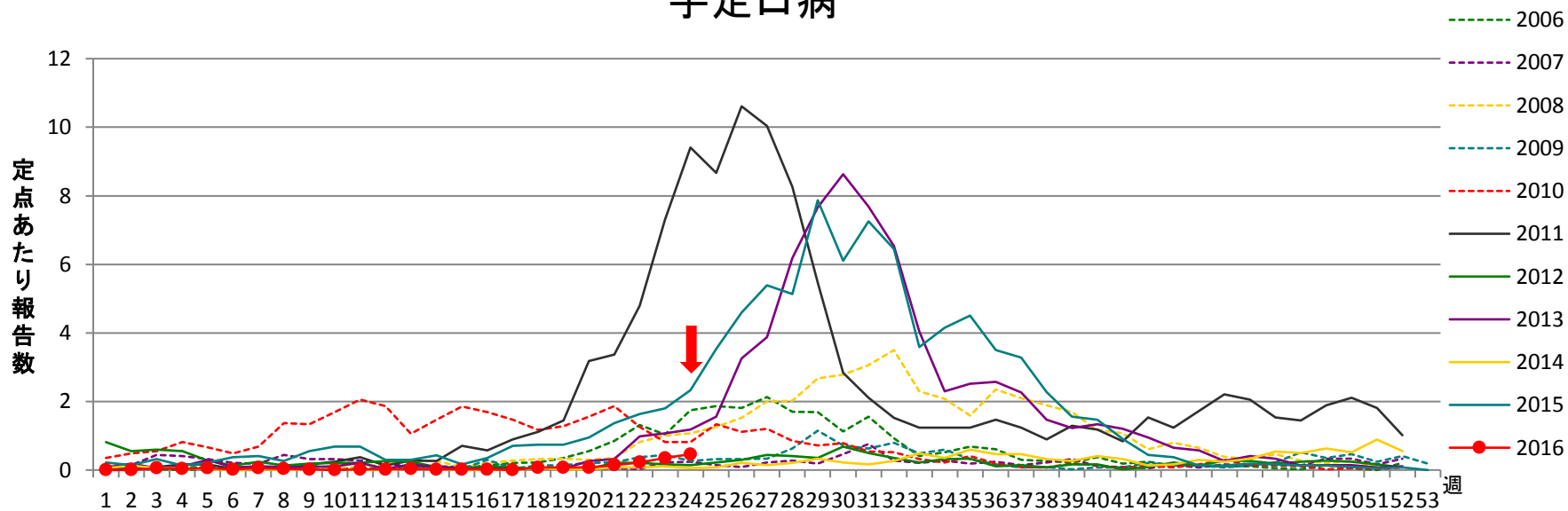
感染性胃腸炎



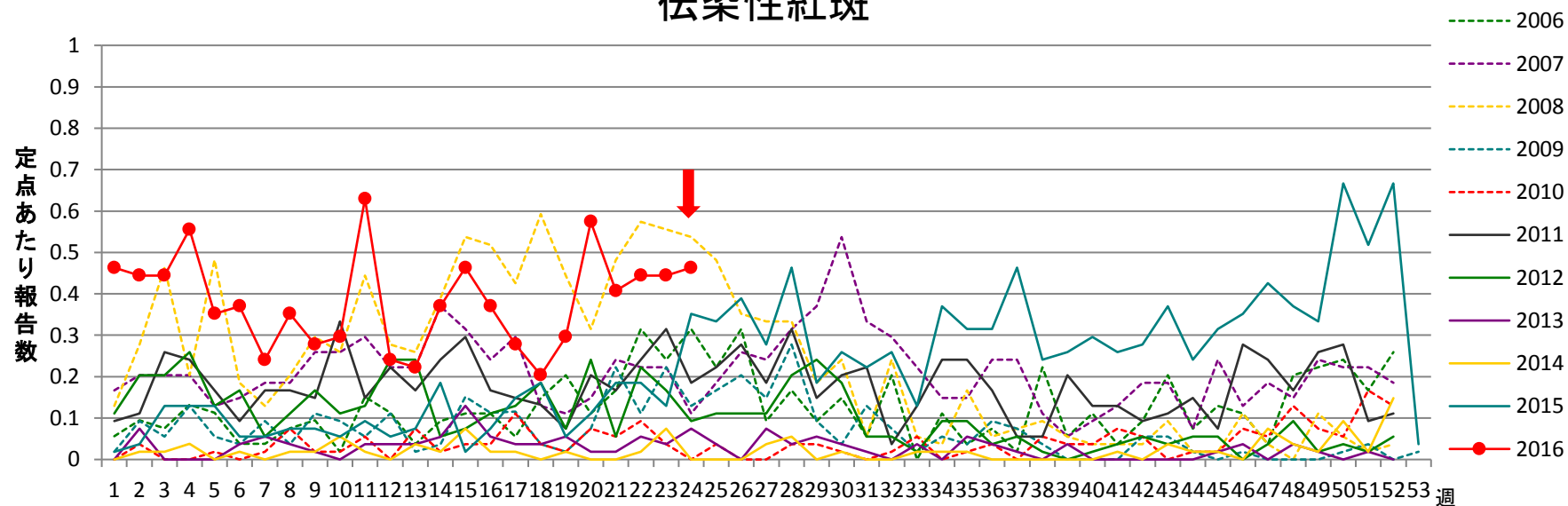
水痘



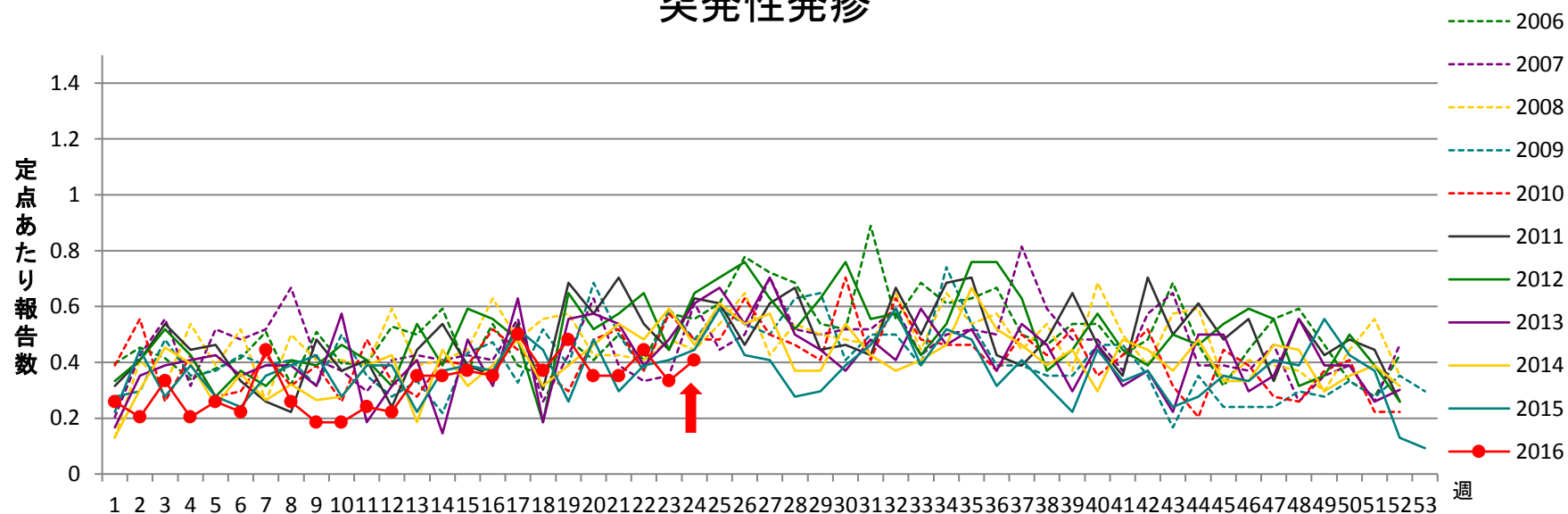
手足口病



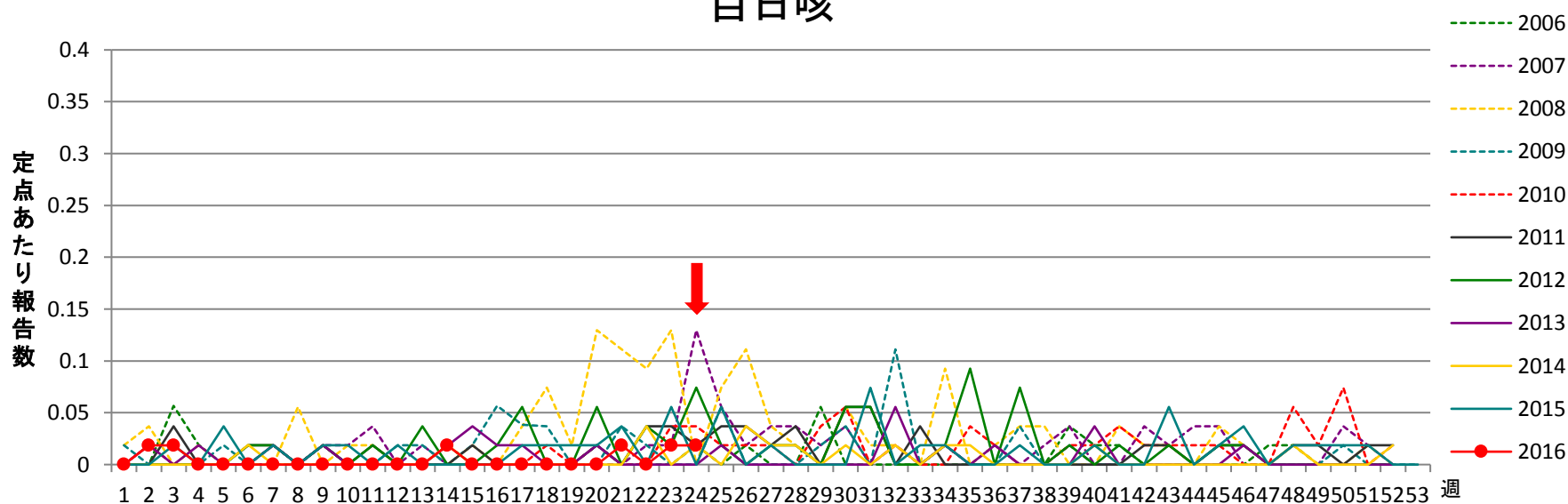
伝染性紅斑



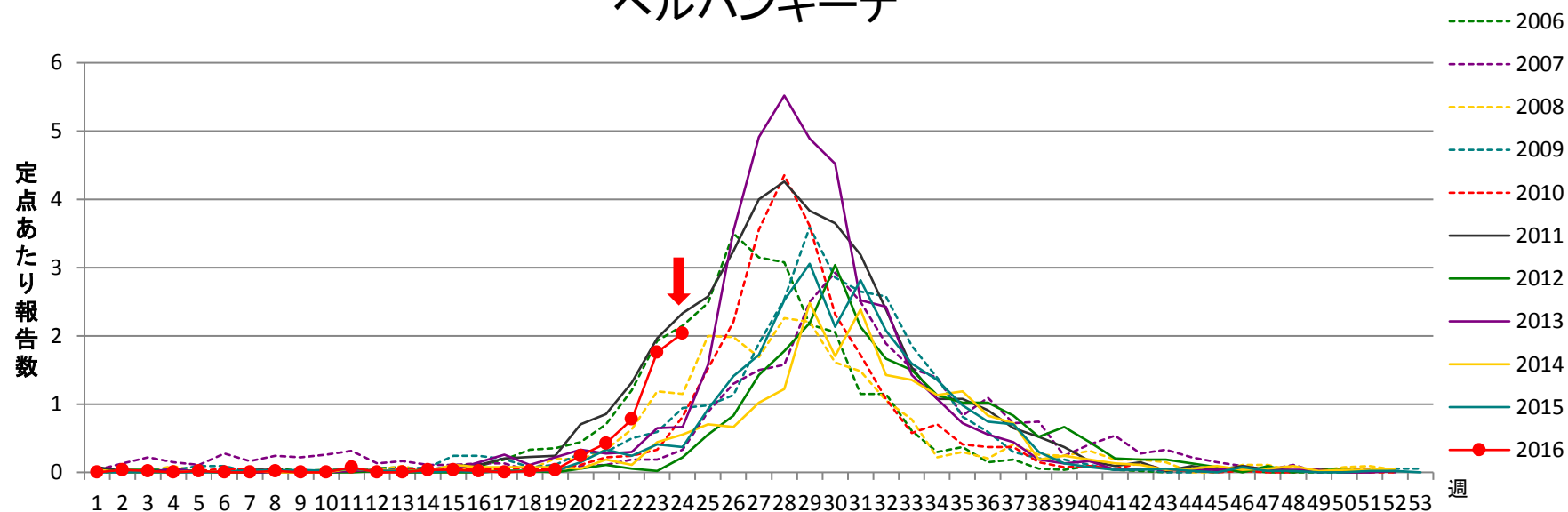
突発性発疹



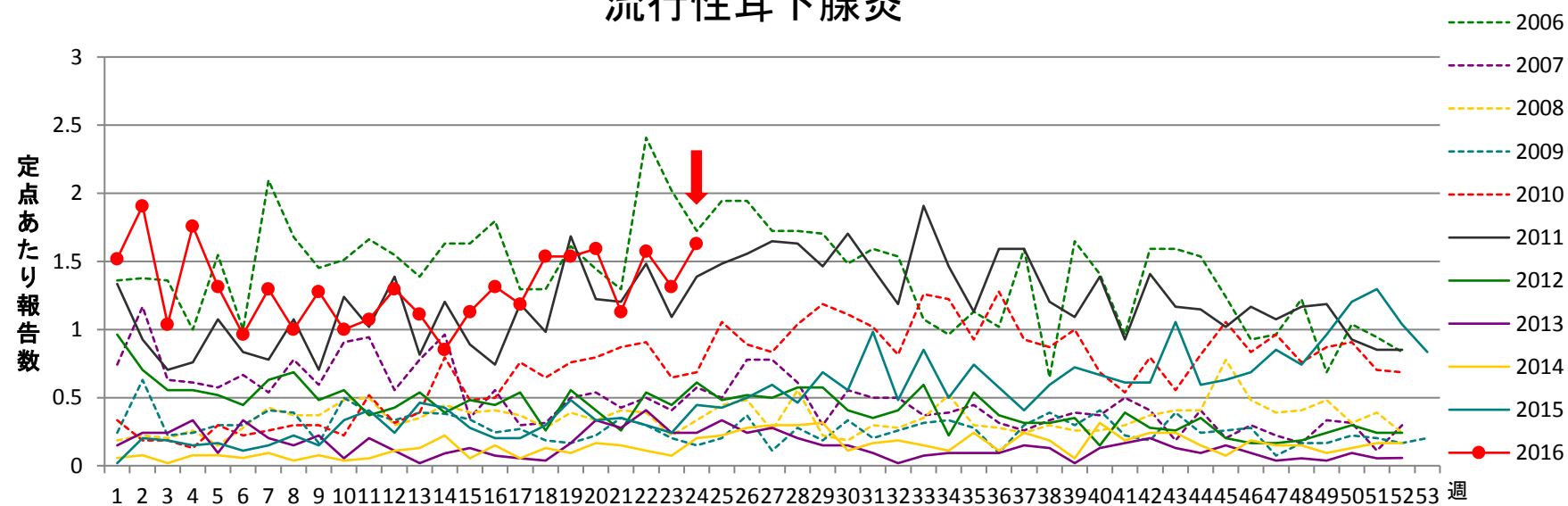
百日咳



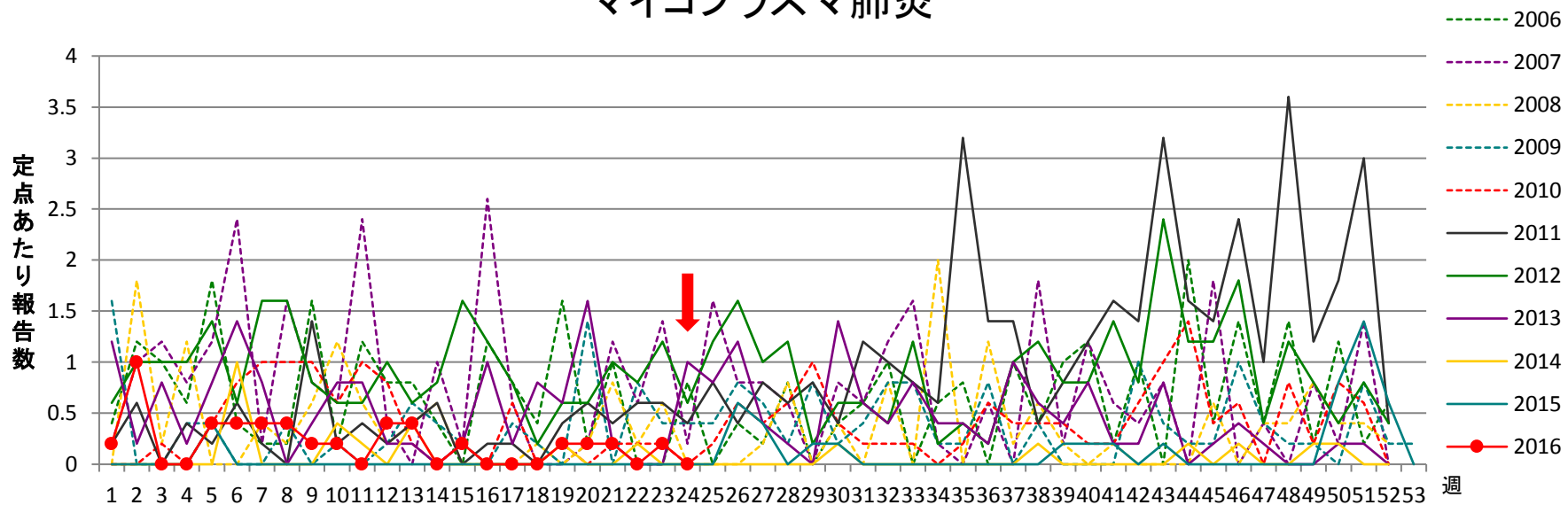
ヘルパンギーナ



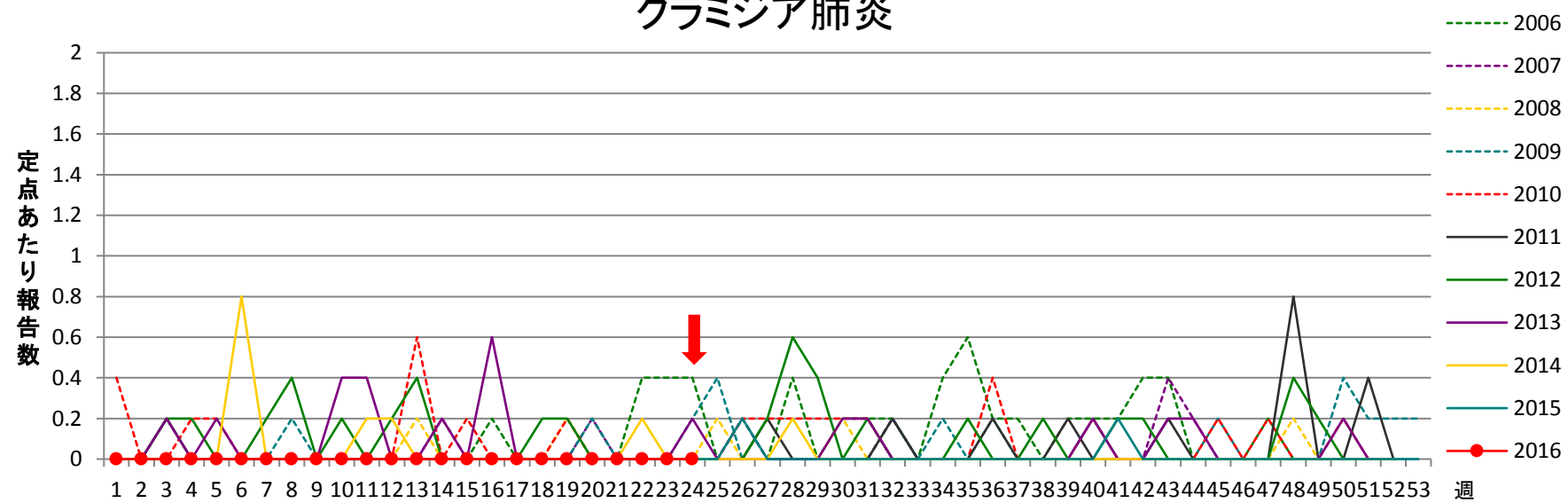
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

